

2019 年度地球化学会年会ショートコース
イントロダクション：
国際周期表年－周期表の発見から 150 周年を祝して－

○丸岡照幸^{1,2}

(¹筑波大学・生命環境系、²日本地球化学会・企画幹事)

周期表は、物理学、化学、生物学、地学、天文学といった幅広い自然科学の進歩とそれに付随する科学技術の発展に多大なる影響を及ぼしてきた。最初の周期律はドミトリ・メンデレーフにより 1869 年に発表され、2019 年はその発表から 150 周年の記念すべき年にあたり、UNESCO 主導のもと国際周期表年 (International Year of the Periodic Table of Elements; IYPT2019) として祝うことが宣言されている。「地球化学」では周期表のもとになった元素周期を意識した研究が進められてきた。周期表における位置をもとに分類されたハロゲン、希ガス、ランタノイドというような挙動の似た元素群の組成分析、同位体比分析を行い、それらの少しずつ違う性質を利用して、様々な事象を読み解くことが行われてきた。今回のショートコースでは周期表にこだわることにし、講演者の皆さんには周期表を基盤とした研究のレビューをお願いした。本年度のショートコースでは下記の講演を予定している。

田中万也 (日本原子力研究開発機構)

「私にとっての希土類元素地球化学－アクチノイドの話を少し添えて－」

遠山知亜紀 (産業技術総合研究所)

「ハロゲンを利用した地球・環境化学」

大野剛 (学習院大学)

「周期表で考える安定同位体地球化学」

野崎達生 (JAMSTEC)

「研究者というお仕事とは；地球科学系の研究者を志す貴方たちへ」

Introduction to Short Course at Geochemical Society of Japan annual meeting 2019;
International Year of the Periodic Table of Chemical Elements (IYPT2019)

*T. Maruoka¹ (¹University of Tsukuba)